

令和4年6月14日

船工 第171号

報 道 各 位

## Posidonia2022 展示会参加報告

一般社団法人 日本船用工業会

当会は、日本財団助成事業として、6月6日（月）から6月10日（金）までギリシャ、アテネにて開催された国際海事展「ポシドニア2022展示会」に日本船舶輸出組合及び一般財団法人 日本海事協会とともに「ジャパンパビリオン」を形成し、当会木下茂樹会長、久津知生副会長（グローバル戦略検討委員長）、小田雅人副会長（海外市場開拓検討委員長）をはじめ会員企業15社と共に参加した。

2018年以来4年ぶりのコロナ下での開催であったものの、主催者発表によれば、会期中28,892名（前回よりも5,000名余りの増加）の来場者があり、入場口付近に設けたジャパンパビリオンはギリシャ船主をはじめ各国の海事関係者で終始賑わった。また、会員企業からは「オンラインで顧客との交流を続けてきたものの、対面でのコミュニケーションは意思疎通がスムーズで、商談が進みやすい」といった展示会の重要性に係る声が相次いだ。

展示会初日には、在ギリシャ日本国大使館・中山大使、日本船舶輸出組合・斎藤理事長、一般財団法人日本海事協会・坂下会長及び当会木下会長によるジャパンパビリオンの開場テープカットを行った。テープカット後、中山大使によるジャパンパビリオン出展社の巡覧があり、各社から事業内容の説明を行った。また、主催者によるオフィシャルのオープニングセレモニーにはギリシャ首相 Kyriakos Mitsotakis 氏が来場し、ジャパンパビリオンも巡覧した。

展示会2日目は、在ギリシャ日本国大使公邸にて、在ギリシャ日本国大使館と日本船舶輸出組合の共催によるレセプションが開催された。ギリシャ・日本の両国海事関係者約50名が参加し、直近の新造船市場の動向等について意見交換を行った。また、展示会場では、ノルウェーパビリオンとデンマークパビリオンの主催者がジャパンパビリオンに来訪し、日本企業の脱炭素化の取り組みについて高い関心を寄せていた。

展示会3日目には、ノルウェーパビリオン主催によるレセプションに、当会久津副会長と事務局にて参加した。在ギリシャ・ノルウェー大使はじめノルウェー海事関係者と意見交換を行い、同大使からは日本はノルウェーにとっては海事産業における重要なパートナーであるため、これからも多方面で連携したい旨の発言があった。

展示会全体を通して、欧州の海事業界はアフターコロナを見据え、商業活動が活発となっている印象があり、各国関係者からは2050年のカーボンニュートラルに向けた日本企業の今後の取り組みに注目したいとの期待の声も多く聞かれた。次回は2024年6月3日～7日に開催予定となっている。

### 〔展示会出展者及び来場者数〕

出展者数               : 1, 964社（88ヶ国・地域）  
来場者数               : 28, 892名

当工業会出展者数：15社

(スペース出展) 11社

AZUMA ENGINEERING (S) PTE LTD、潮冷熱(株)、  
(株)ジャパンエンジンコーポレーション、商船三井テクノトレード(株)、  
ダイハツディーゼル(株)、BEMAC(株)、富士電機(株)、富士貿易(株)、  
三菱重工マリンマシナリ(株)、ヤンマーパワーテクノロジー(株)、  
(株)YDK テクノロジーズ

(パネル出展) 3社

(株)シンコー、東部重工業(株)、(株)ミカサ

(カタログ出展) 1社

三浦工業(株)

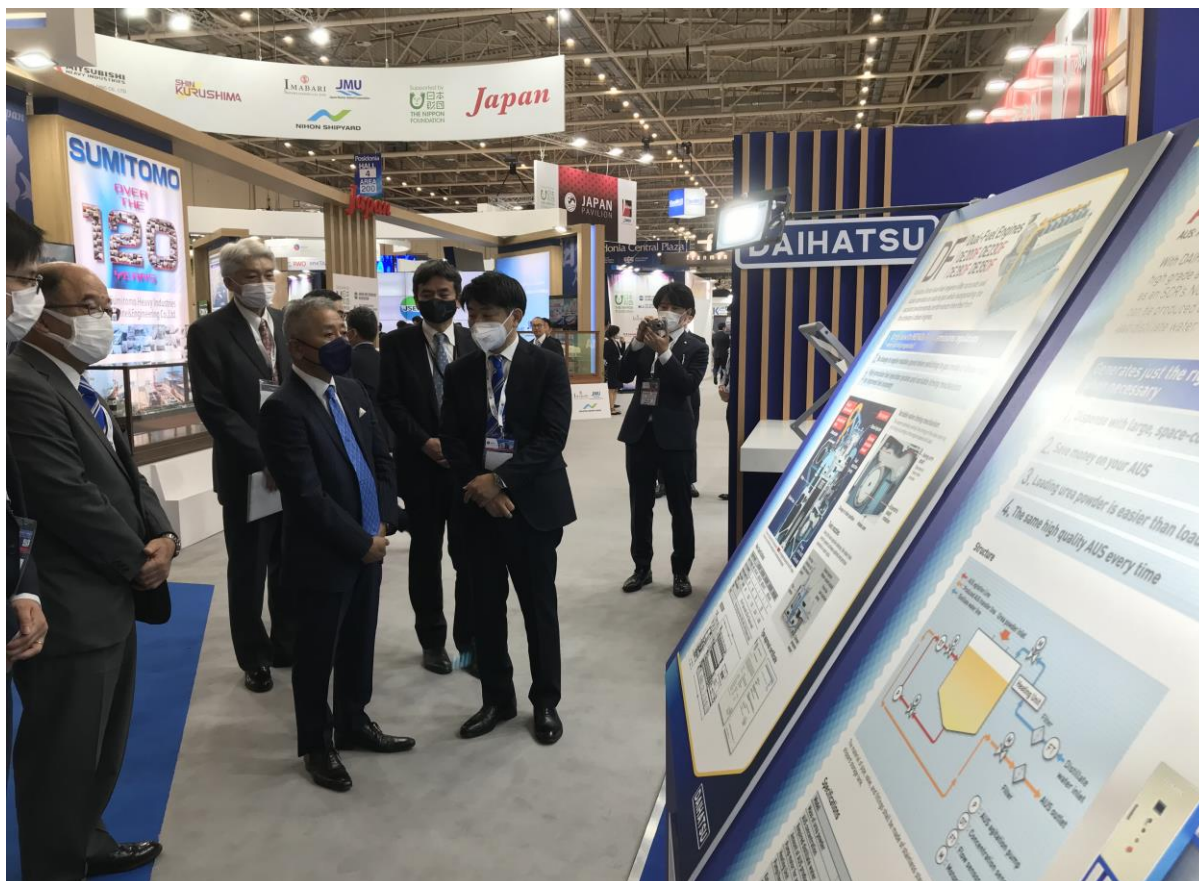
以 上

・ジャパンパビリオンパビリオンテープカットの様子



左から日本海事協会・坂下会長、中山大使、日本船舶輸出組合・斎藤理事長、当会・木下会長

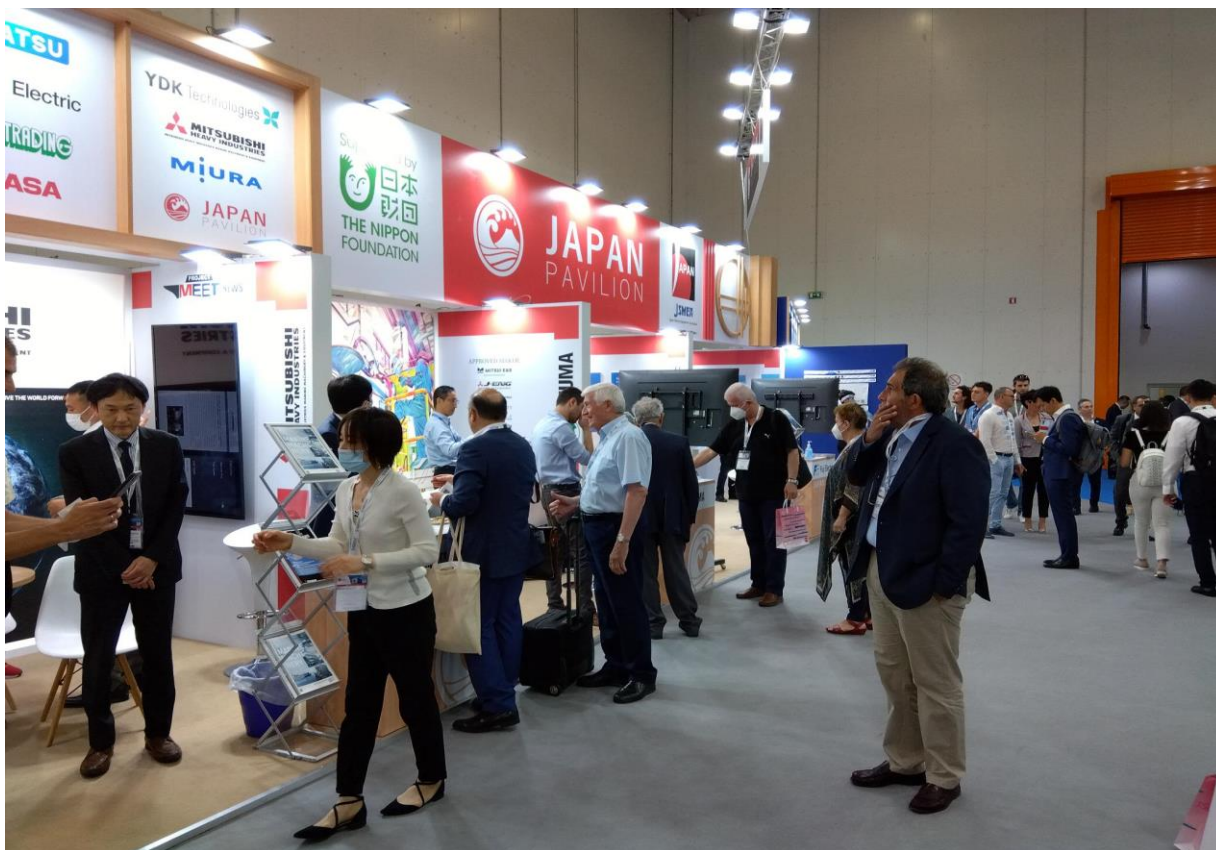
・中山大使による当会展展企業巡覧①



・中山大使による当会出展企業巡覧②



・展示会場の様子①



・展示会場の様子②



・デンマークパビリオン・ノルウェーパビリオン主催者によるジャパンパビリオン訪問①



左から2番目 デンマークパビリオン主催者 Danish Export Association Mie Jakobsen氏  
左から3番目 ノルウェーパビリオン主催者 Norwegian Maritime Exporters Erlend Prytz氏

・ノルウェーパビリオン・デンマークパビリオン主催者によるジャパンパビリオン訪問②



・ノルウェーパビリオン主催レセプションの様子



左から当会・久津副会長、駐ギリシャノルウェー大使 FRODE OVERLAND ANDERSEN 氏、当会・安藤専務理事